

藤末健三著「挑戦！ 20代起業の必勝ルール」21世紀産業創出研究会 2006年6月30日発行を読む

メンター(人生の師匠)を見つける

1. 私は、「何かに挑戦するとき一番大事なものは何か？」と聞かれると、それは「志」と「メンター(人生の師匠)」と答える。
2. これまで人生の節目ごとに、メンターに相談してきた。そのアドバイスはほとんど正しく、挑戦を経験していない人には決してできないアドバイスだった。
3. 極論すると、この本のメッセージは、「人生の師匠を見つける！」ということだ。
4. よく経済学で「企業経営のケーススタディ」を勉強するが、それよりも「挑戦し、成功した人の人生のケーススタディ」をすべきである。
5. それではどんな人のケーススタディをすべきか？という話になるが、それは簡単で「自分が尊敬できる人、こうなりたいと思う人」だ。
6. あまり数は多くないが、私がこうなりたいと思う人の共通点は、次の2点である。
 - (1)自ら苦勞を買って、行動していること。
 - (2)世の中のため、真剣に生きていること。
7. そして、みなさんも生きたケーススタディを見つけることをお勧めする。
8. ただ、注意したいのは、若い人は、「運だけで結果を出した人を評価しがち」だということだ。世間の評価はあまりあてにならない。本当にがんばっている人は、マスコミにはなかなか取り上げられないものである。
9. ぜひ、みなさんが挑戦する時には自分の師匠を見つけてほしい。本物の志があれば、今は力や地位がなくとも、やがて何らかの力になってくれると思う。
10. 「老いたる馬は道を忘れず」ということわざがある。先輩諸氏にはいささか失礼なことわざだが、「老いた馬はいろいろな道を通った経験を持っており、道に迷ったときには老いた馬を先頭に立てれば、必ず道に出られる」という意味だ。これは人間にもあてはまることである。

P 8 ~ 9

〔コメント〕

ドメスティックであれグローバルであれ、これから求められる「人財」は、起・企業家的精神に

あふれる人だ。起業し、企業としての仕組みを整え、また、その上で一段と飛躍するために起業。これを一生のうち何回か繰り返すことのできる人こそが「人財」と言える。そのことの大切さを藤末氏が教えてくれる好著。

- 2011年5月26日 林 明夫記 -